

副腎皮質機能低下症

IIアジソン病

執筆者・岡谷動物病院 佐々木厚さん

はじめに

この病気は、前回お話しした「クッシング症候群」とちょうど反対です。ストレスから体を守る重要なステロイド(IIグルココルチコイド・ミネラルコルチコイド)が体内で低下して起る緊急の病気です。クッシングは徐々に命に関わりますが、アジソン病は

症状

救急疾患として扱われます。大抵はほぼ認められ、猫ではまれな病気です。副腎皮質が自己免疫によって(特発性)感染症、転移性腫瘍、クッシング症候群の治療薬によって破壊されて発生します。大抵は特発性の副腎萎縮によるアジソン病が多く、ミネラルコルチコイドとグルココルチコイドの両方が不足します。

治療

アジソン病も存在し、診断が難しく、症状も慢性の消化器症状や虚弱などのあいまいなものですが、多くの症例が見逃され誤診されています。

維持治療

救急治療と確定診断によって状態が安定したら、維持治療に移行します。維持治療には「フロリネフ」という

最後に

アジソン病は生涯治らない病気です。一生薬を飲み続けなければ100%再発します。しかし、急性期を乗り切れば、アジソン病の予後はよく、適切な維持治療が行われる限り動物は寿命を全うできます。

2年間の連載を終えて

今まで愛読してくださって本当にありがとうございました。伝えたいことの区別の1も書いていませんが、ひと通り遭遇する病気や大猫さんと暮らす時の重要な点や心構えについて書き尽くしたつもりです。どうしてもお伝えしたいことがあります。大猫さんの死亡の原因No.1は保健所での安楽

忘れないで!

- ・犬には「社会化」が必須
- ・犬猫は人間の6倍のスピードで生きている
- ・犬猫の異常に気付ける飼い主が本当の「主治医」



死です。それをなくすためには「心のワクチン」である「社会化」が必須です。それを行うのが当院の開いている「パピースクール」です。「からだのワクチン」と「こころのワクチン」を同時にこなすことを、心身ともにバランスの取れた人間社会でストレスなく過ごしていける犬さんになることができま

治療

アジソン病も存在し、診断が難しく、症状も慢性の消化器症状や虚弱などのあいまいなものですが、多くの症例が見逃され誤診されています。

救急治療と確定診断によって状態が安定したら、維持治療に移行します。維持治療には「フロリネフ」という

アジソン病は生涯治らない病気です。一生薬を飲み続けなければ100%再発します。しかし、急性期を乗り切れば、アジソン病の予後はよく、適切な維持治療が行われる限り動物は寿命を全うできます。



46

「がん」です。犬さんでは2頭に1頭、猫さんでは3頭に1頭が「がん」で亡くなっています。次が心臓病・腎臓病です。この3大疾患も含めて病気を「確定診断」無しでは治すことができません。4週間たっても確定診断が付けられない場合は、より医療レベルの高い病院や二次診



犬猫さんは、人間の6倍のスピードで生きている。1週間様子を見ることは人間だと6週間、1か月だと6か月、1年だと6年にも相当するということを決して忘れないよう

にしてください。話すことができない犬猫さんの異常をいち早く察知して動物病院に連れていくことのできる飼い主さんが、本当の「主治医」です。大切なかけがえのない家族の恩返しのためにも病院に連れて行ってください。

この連載は日本での標準的な当たり前の診断・治療法を書いたものです。犬猫さんの健康に少しでもお役に立てればこれに勝る喜びはありません。2年間ありがとうございました。【おわり】